



OVERSEAS

Yemen and Djibouti

—イエメン共和国、ジブチ共和国—

海外事情【寄稿】



「幸福のアラビア」と「アフリカの角」を訪れて



柴田 翔 SHIBATA Sho
株式会社ニュージェック
国際事業本部/技術グループ/土木チーム

調査で訪れた国

国際事業本部に配属されて3カ月、ようやく社会人としての生活にも慣れてきた頃に、幸運にも?中東とアフリカの4カ国(イエメン、ジブチ、ブルンジ、ガボン)における太陽光発電所導入の調査業務に従事する機会が得られました。この業務では、2009年7月から2010年5月の期間に、延べ5カ月にわたって調査を実施しました。今回はこの4カ国の内、イエメンとジブチの2カ国について御紹介したいと思います。

「幸福のアラビア」イエメン

「幸福のアラビア」と呼ばれるイエメンはアラビア半島の南端に位置し、古くから紅海とインド洋をつなぐ交通の要所として栄えた国です。人口2,358万人、面積は日本の約1.5倍の527,970km²、宗教はイスラム教。あのソロモン王への謁見で有名なシバの女王が築いた王国と言えば馴染みがあるでしょうか。現在のイエメンは、他の中東諸国と比べると原油埋蔵量が少なく、中東の最貧国の一つで、今も南北間の争いや部族間の抗争が絶えない国とされています。

そのため、イエメンを訪問するまではお世辞にも良い印象はありませんでした。しかし、確かに不安定な情勢の一面を垣間見ることもありましたが、それ以上に魅力的

な国で「幸福のアラビアはそこにある」と言うのが3回の訪問を終えての率直な感想です。

首都サナアの日々

イエメンの首都サナアは標高2,200mを超える高地にあり、飛行機の窓からは褐色の風景が続きます。雲一つない澄んだ青空に、風と共に舞う砂塵。空港に降り立った瞬間から「イエメンに来たんだな」という実感が湧きました。

空港で入国手続きをする際に気になったのは、ほとんどの警備員が自動小銃を携行していること。普段の生活では、まず実物の銃を見かけることはありませんので、警備員が近くに来る度に「呼び止められたらどうしよう」と緊張していました。到着してすぐは「イエメンはやっぱり危ない国なのか」とビクビクしていたのですが、慣れとは恐ろしいもので、1週間もすればすっかり平気になって「アッサラームライクン!(イスラム教の挨拶)」と声を掛けるようになっていました。

サナアの生活で頭を悩ませたことと言えば、朝5時から大音量で鳴り響くコーラン、事あるごとに



図1 イエメンとジブチ



写真1 美しい建物が立ち並ぶオールドサナア



写真2 迷路のような旧市街 写真3 オールドサナアの調味料市場 写真4 結婚式のお祝い

湾に面するアデンは、通商の要所となる港湾都市です。高地で涼しいサナアに比べると、海からの湿気の含んだ温風が吹き、日中は35℃にも達します。一方、サナアのように建物が密集した都市ではないため、空は広く開放感が溢れているように感じられました。

ここでは比較的まとまった期間を滞在したため、プロジェクトサイトの人々とも仲良くなり、「お前はサウジアラビアの王族に似ているからもっと髭を伸ばすんだ!」と冗談を言われながら、楽しい日々を過ごしました。

イエメンでの食生活

治安、気候、風土、習慣などなど、海外で生活する上で、何に重きを置くかは人それぞれかと思えます。私にとっては何と言っても“食”が一番。この調査においても、全く馴染みのない国々ということで、日々の食生活には大きな不安を抱いていたのですが、結果的にはほとんど不満の無い食生活を送れたように思います。この出張で実感したのは、現地の人々に人気のあるレストランは大抵美味しいという当たり前の事実。外国人向けのレストランも良いですが、たまには現地で人気のあるレ

クラクションを鳴らす交通事情くらいで、後はいたって快適な生活でした。

世界遺産のオールドサナア

サナアの見どころは何と言っても、そのエキゾチックな街並みにあると思います。煉瓦と石で積み上げられた家屋に、色彩豊かなステンドグラス。同じように見えるものの建物もそれぞれ特徴があって、幾何学的な模様の豊かさはどれだけ見て歩いても飽きません。そんなサナアの街並みの中で、是非訪問してもらいたいのが世界遺産にも登録されているオールドサナア(旧市街)です。

入口の門をくぐれば、アラビアの伝統衣装とジャンビア(装飾の刀剣)を携えた人々が市場を闊歩するまさにアラビアンナイトの世界。市街は入り組んだ迷路のようになっており、活気豊かな市場と古い面影を残す街並みは、虜になる旅行者が多いのも納得です。市街では

威勢のいい口上の店主を相手に掘り出し物のお土産を探すのもよし、歩き回ってお気に入りの風景を探すのもよし。残念ながら今回は2時間ほどの短い訪問になりましたが、機会があればもっと時間を掛けて見て回りたいと思います。

また、街行くイエメンの女性はほとんどと言っていいほど目の周り以外を黒い布ですっぽり覆った伝統衣装のブルカを着ています。しかし、街では所々で、ど派手なドレスが並んだショーウィンドウを見かけました。普段、ブルカを着ている分、男禁制の女性だけのパーティでは目いっぱい着飾るそうです。女性のお洒落好きは、万国共通のようです。

第2都市アデンの日々

我々のプロジェクトサイトは首都サナアから飛行機で1時間弱のアデン市に位置しており、イエメンの滞在の半分はアデンで過ごしました。アラビア半島の南端でアデン



写真5 アデンの街並み



写真6 プロジェクトサイトの皆さんと



写真7 レストランのサンプル

レストランを食べ歩きするのもまた楽しいものです。

イエメン料理の一押しは、チキンと野菜とじゃがいもを炒めたアクダ。これに直径50cmくらいの薄くて平べったいパンと豆のペーストが気に入って、昼食はほとんどこの組み合わせでした。海外ではこの「毎日食べても飽きない」と言うのも重要でして、飽きずに食べられる料理があるとないとは日々のレストラン選びの悩みは大きく異なります。イエメン料理は日本のお惣菜のような感覚で食べられる料理も多く、特に食に困ることはありませんでした。

アクダ以外にもぐつぐつに煮込まれた石鍋料理のサルタなど、試してもらいたい料理はたくさんあります。別に手の込んだ料理じゃなくても、街を歩いていけばローストチキンや羊の串焼きが露店で売っていますし、アラビア語が読めなくても、サンプルが置いてあって指差して注文できるレストランが多いのも助かります。

イエメンの治安

日本でも大きく取り上げられたため、ご存じの方も多いかと思いますが、2009年10月、ちょうど我々がイエメンを離れて1カ月後に、イエメンで邦人誘拐事件が発生しました。幸い、拘束された方は無事解放されましたが、イエメンではこれまで幾度となく外国人誘拐事件が発生しています。これ以外にも2009年12月には、アルカイダの訓練を受けたと見られる男性による米デルタ機爆破テロ未遂事件が発生しており、不安定な情勢を取り上げられることが多いです。

イエメンがこうした一面を備えているのは確かです。しかし、その一方で、素朴で人懐っこい人柄、古



写真8 グベット地区にて



写真9 太陽光パネルと水を飲むラクダ

ききアラブの面影を残したエキゾチックな街並みなど、魅力溢れる国でもあります。一刻も早く治安情勢が安静化し、イエメンの魅力を気兼ねなく伝えられるようになることを願うばかりです。

「アフリカの角」灼熱の国ジブチ

イエメンを後にして向かったのは、アデン湾を挟んでイエメンの対岸に位置するジブチ。人口82万人、面積は四国より少し大きい23,300km²の小さな国ですが、南には海賊問題で荒れるソマリアがあり、最近、自衛隊が拠点を構えたこともあって日本でも注目されている国です。また、対立するエリトリアに海の出口を抑えられているエチオピアにとっては、ジブチが唯一の海への玄関口であり、海賊問題も含めて重要な地域となっています。

さて、そんなジブチはどのような国でしょうか。まず出てくる言葉は「暑い!!」の一言。対岸のアデンも相当な暑さではありましたが、それをはるかに上回る暑さです。ジブチは地球上で最も暑い国の一つと言われており、中でも6~9月にかけては「ハムシン」と呼ばれる熱風が吹き、猛暑を乗り越えて酷暑と呼ばれる暑さになります。世界を見渡せば、砂漠のように、日中に照りつくような暑さを感じる地域はいくらでもあります。しかし、ここジ

ブチは海からの湿気のせい、日が落ちてその暑さはとどまることを知らず、夜間でさえも30℃を超える有様。現地では「ジブチには2つの季節がある。HotとVery Hotさ!」という自虐的なジョークがあるほどです。

地方電化のサイトへ

ジブチを初めて訪問した際に、プロジェクトサイトの研究所の所長さんが、彼らが研究の一環で行っている太陽光プロジェクトのサイトに連れて行ってくれました。これは太陽光パネルで発生した電力によって地下水を汲み上げるというプロジェクトで、ジブチ市外の小さな集落にサイトがあります。調査で市外に出ることはほとんど無かったため、嬉しい外出になりました。

市内から車で走ること1時間半、途中何度も車がパンクしながらサイトのあるグベット地区に到着しました。ここに広がる風景はまさに荒野と呼ぶにふさわしく、所々に生える樹木は根をしっかりと下ろ



写真10 元気いっぱいなジブチ子供たち



写真11 魚料理屋にて。魚は自分で選びます



写真12 豪快な焼き魚

して、まるで鉄のような力強い幹と、触れれば切れそうな鋭い棘が環境の厳しさを物語っていました。

サイトは申し訳程度のフェンスに囲まれています。フェンスには穴が開いていて誰でも入れます。最近盗水や太陽光パネルの盗難が問題になっているとのことでした。また、パイプから漏れた水が湧き出ており、何処からともなく現れたラクダがゴクゴクと水を飲む姿は何ともシュールな光景でした。

サイトのある集落は学校もあり、見慣れぬ日本人の団に興味を示したのか、あつという間に人だかりができます。人だかりができると言っても、何か物をねだられる訳でもなく、興味深そうにこちらをじっと見ていて、たまにおかしそうに笑ったりしているだけです。よくよく観察してみると、すぐ近くでずっと眺めている子供たちもいれば、少し遠巻きに眺めている子供もいて、ちょっと年長(高校生?)くらいにもなると、あまり興味なさそうにしているのが印象的でした。皆を騒がせたお詫び?ということで、周りにいる皆を写真に収めました。海外で調査をしていると、現地の人々を撮影して良いものかと悩むことがしばしばありますが、撮影するときはなるべく、その場にいる人々皆を撮影して、撮った写真を見てもらって御礼するようにしています。

ジブチでの食生活

ジブチはこの暑さと気候のため、自国で穀物や野菜が栽培できず、食物を輸入に頼っています。スーパーには野菜はほとんど並ばず、しかも日本よりもはるかに高額です。外国人向けのスーパーだけでなく街の市場も中々のお値段で、現地の人々の食生活はどうなっているのか心配してしまうほどです。

現地の外食事情ですが、食にうるさいフランスの軍隊が長く駐留しているだけに、洋食のレストランは豊富でした。

さて、ジブチの中で一押しするのは何と言っても魚の丸焼きです。厳密には対岸のイエメン料理かもしれませんが、すぐそばに豊富な漁場が広がるジブチは魚の豪快さが違います。魚料理のお店では、まず自分で魚を選ぶことから始まるのですが、大きなハタから見たことのないカラフルな魚まで、色々あって目移りしてしまいます。調理方法は、選んだ魚を2枚におろし、調味料と共に石釜で皮に焦げ目が付くまで焼きあげる至極単純なものです。しかし、脂の乗った50cmを超えるハタを強火で焼きあげているのですから、そりゃあ美味いに決まっています。2度目の訪問からは醤油を持ち込んで、何度も通って堪能しました。世界各国の料理が食べられる日本

であっても、こんな豪快な魚料理は中々食べられませんので、ジブチを訪れる機会があれば、是非試してもらいたいと思います。

海外のススメ

最後になりましたが、同年代、そしてこれから建設業界に入る後輩の皆様、海外での業務をおすすめしたいと思います。経験と実績が重要視される海外業務では、あまり同年代の同業者に会う機会がないように思われます。また、大学の同期達と話をしていても「海外はちょっと…」としり込みする人が多いように感じられます。

私は幸運にも入社してすぐにこんなバラエティ豊かな国々を巡る貴重な経験を積ませて頂いたのですが、以前から特別に強い海外志向があった訳ではありません。気が付けば国際事業部に配属されて、あれよあれよと言う間に海外に行くことになったのが実情です。

海外で過ごす日々と業務は、良い面があれば悪い面もたくさんあります。でも、今ではそれら全部をひっくるめてやりがいがある、魅力のある仕事だと感じています。こうしたやりがいと魅力は、やっぱり現地に行ってみないと分からないものです。同年代の皆様も食わず嫌いはせず、一度海外の業務を経験されてはいかがでしょうか。きっと、新たな一面が開けると思います。



写真13 日中の人影はまばらです